SONY

4-271-528-05(1)

地上･BS･110度CSデジタルハイビジョン

液晶テレビ

取扱説明書

操作のしかたは、
テレビ本体に搭載されている
「電子取説」をご覧ください。

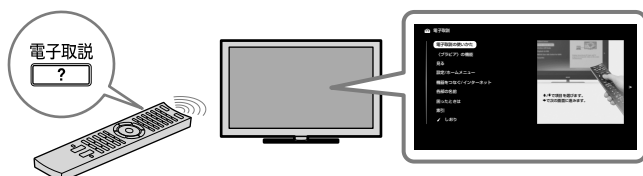
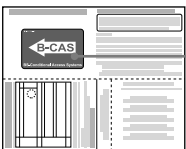
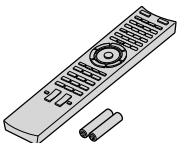
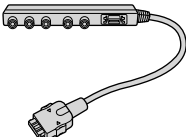
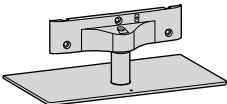
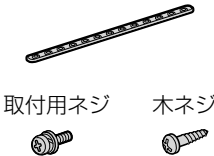
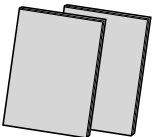
BRAVIA

KDL-55HX920 / 46HX920
KDL-55HX820 / 46HX820
KDL-46NX720 / 40NX720

目次

* 本書で使用されているイラストは、お使いの機種と異なる場合があります。

本書では、設置・接続や、初期設定のしかたを記載しています。

機能について詳しくは、本機搭載の「電子取説」をご覧ください。リモコンの電子取説ボタンを押すと、テレビで説明を見ることができます。
「電子取説」の操作のしかたについては、☞18ページをご覧ください。

電子取説の目次*

* お使いの機種により、表示される項目は異なります。

付属品を確かめる

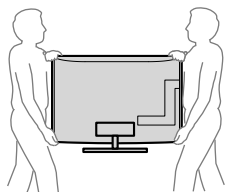
付属品一覧

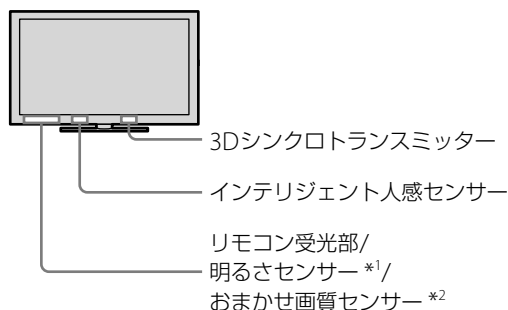
付属品	
• B-CAS（ビーキャス）カード（デジタル放送用ICカード）（1枚） 台紙に貼り付けてあります。	B-CASカード
• リモコン（1個） • 単4形乾電池（2個）	
• ビデオ/D端子アダプター（1個）	
• スタンド（1個）*1	
• 六角レンチ	
• スタンド組み立て用ネジ（六角穴付き）（4本*2または3本*3）	
• 本体固定用ネジ（+PSW M5×16mm）（3本）	
• 転倒防止用ベルト（1本） • 取付用ネジ（＋PSW M4×10mm）（1本） • 木ネジ（M3.8×20mm）（1本）	取付用ネジ　木ネジ
• ワイヤークランパー（1本）*4	
• 取扱説明書（本書） • 保証書など	

*1 スタンドは組み立てる必要があります。詳しくは、別紙のかんたん設置ガイドをご覧ください。
*2 KDL-55/46HX920, KDL-55/46HX820, KDL-46NX720に付属。
*3 KDL-40NX720に付属。
*4 本機後面に付いています。

本機を持ち運ぶ

正しい方法で運搬/移動する

誤った方法で運搬したり移動したりすると、本機が落下し、打撲や骨折をしたり、大けがをすることがあります。
大型テレビは重いので、開梱や持ち運びは必ず2人以上で行ってください。
テレビの底面を持つときは、イラストのようにしっかりと持ってください。
運ぶときには、衝撃を与えないようにしてください。落下や破損などにより、大けがの原因となります。
特に、液晶画面を押さえたり、強い力が加わるような持ちかたをしないでください。
本機を運ぶときは、本機に接続されている電源プラグやケーブルなどをすべてはずしてください。電源プラグを差し込んだまま移動させると、電源コードが傷つき、火災や感電の原因となることがあります。
修理や引越しなどで本機を運ぶ場合は、お買い上げ時に本機が入っていた箱と、クッション材を使ってください。

設置場所を決める

本機のセンサー受光部をさえぎらないように設置場所を決めてください。

*1 KDL-46/40NX720のみ。
*2 KDL-55/46HX920, KDL-55/46HX820のみ。

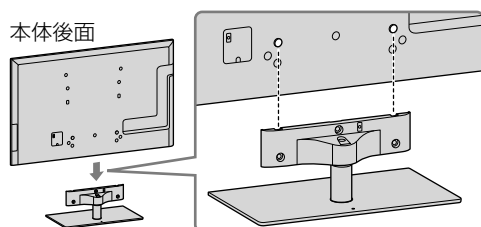
ご注意

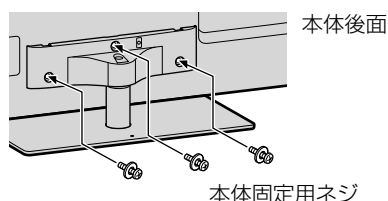
- 液晶画面を照明や太陽にむけたままにすると、液晶画面を傷めてしまいます。屋外や窓際には置かないでください。
- 本機を寒いところから急に暖かいところに持ち込んだときや、湿気の多い場所や暖房を入れたばかりの部屋などでは、機器表面や内部に水滴がつくことがあります。これを結露といいます。
  結露が起きたときは、本機の電源を切り、結露がなくなるまで放置してからご使用ください。
- インテリジェント人感センサーに直射日光や強い光が当たらないように設置してください。故障の原因になります。

スタンドを取り付ける

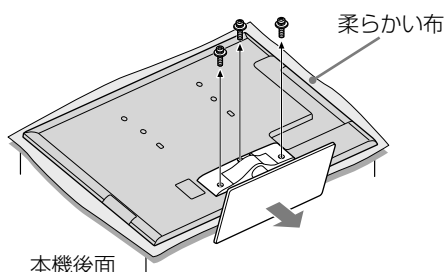
取り付ける前に、付属のネジに合ったドライバーをご用意ください。
別紙のかんたん設置ガイドをご覧になり、あらかじめスタンドを組み立ててください。

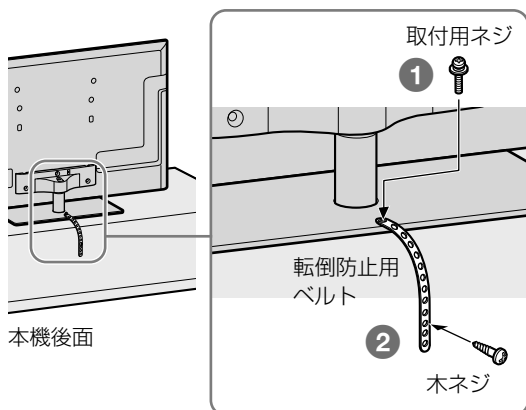
1 本体をスタンド(付属)に載せる。

必ず2人以上で行ってください。
片方の手で底面を持ち、もう片方の手で本体上部を支えてください。

2 ⬆の位置で本体固定用ネジ(付属)を締め、スタンドを固定する。

電動ドライバーを使う場合、締め付けトルクは約1.5N･m {15kgf･cm} に設定してください。

スタンドを取りはずす

本機を別売の壁掛けユニットやフロアスタンドなどと使うときは、付属のスタンドを取りはずしてください。
⬆ の位置の本体固定用ネジをはずしてください。

ご注意

- 柔らかい布などを敷いた台に画面を下にしてテレビを載せてください。
- 取りはずしたスタンドのネジは、壁掛けユニットやフロアスタンドなどの取り付けに使用しないでください。
- 取りはずしたスタンドおよびネジは、大切に保管してください。スタンドに戻す場合に必要です。スタンドを個別に購入することはできません。

転倒防止の処置をする

1 転倒防止用ベルト(付属)をスタンドに取付用ネジ(付属)でしっかりと留める。

2 テレビ台などに木ネジ(付属)などでしっかりと留める。

ご注意

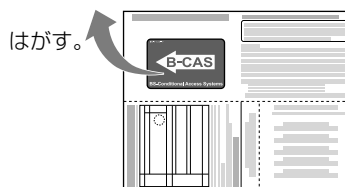
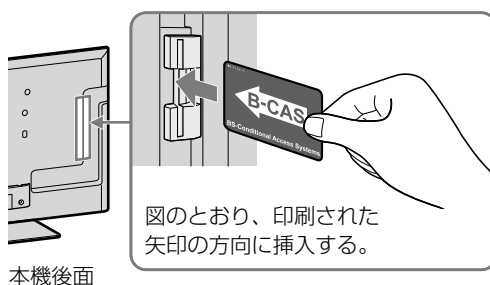
- 転倒防止の処置をしないと、本機が転倒し、けがの原因となることがあります。
- テレビ台の種類により、付属の木ネジが使用できないときや、強度が充分とれないときには、お買い上げ店や工事店にご相談のうえ、市販のネジ(直径3 ～ 4mm)をご使用ください。

B-CAS(ビーキャス)カードを挿入する

B-CASカード(デジタル放送用ICカード)はお客様と地上デジタル、BSデジタル、110度CSデジタルの放送局をつなぐカードです。
デジタル放送を視聴するしないに関わらず、必ずB-CASカードを挿入してください。

次の手順は、電源を切った状態で行ってください。

1 同封の「ビーキャス(B-CAS)カード使用許諾契約約款」の内容を読み、了解されたうえで、台紙からB-CASカードをはがす。

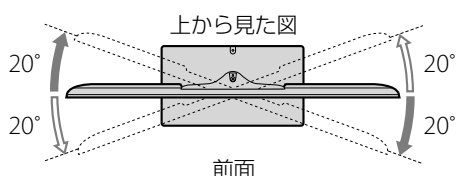
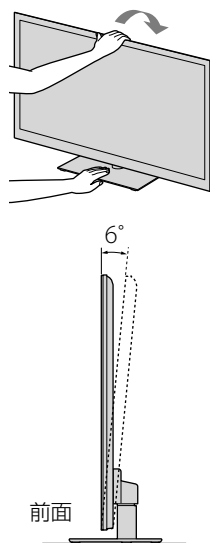
B-CASカードを貼ってある台紙の内容にご不明な点があるときは、B-CASカスタマーセンター(電話番号0570-000-250)へお問い合わせください。

2 B-CASカードを奥までしっかり挿入する。

ご注意

2004年4月から、番組の著作権保護のためにB-CASカードを利用しています。
B-CASカードを挿入しないと、すべてのデジタル放送を視聴できなくなります。

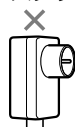
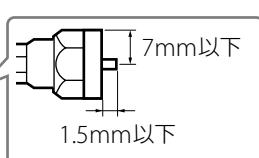
見やすい角度に調節する

ご注意

- 本体とスタンドの間に手や指をはさまないように動かしてください。また、壁などにぶつからないようにしてください。
- スタンドの角がテレビ台などからはみ出さないようにスタンドの位置を調節してください。はみ出すと落下やけがのおそれがあります。
- スタンド部分がずれたり、浮いたりしないように手で支えながら調節してください。

画面の向きを調節する（スイーベル）

画面の角度を調節する（チルト）

アンテナをつなぐ

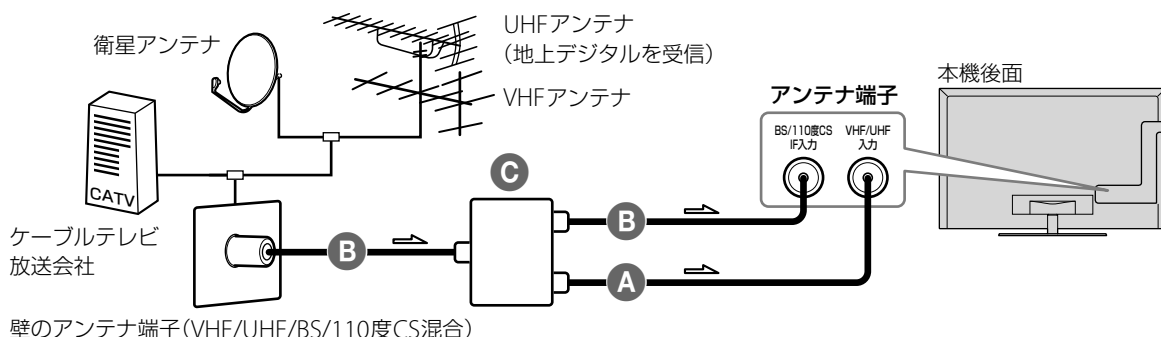
衛星アンテナやVHF/UHFアンテナをつなぎます。壁のアンテナ端子や、受信する信号に合わせて、アンテナの接続を行ってください。録画機器などもつなぐときは、つなぐ機器の取扱説明書をご覧ください。

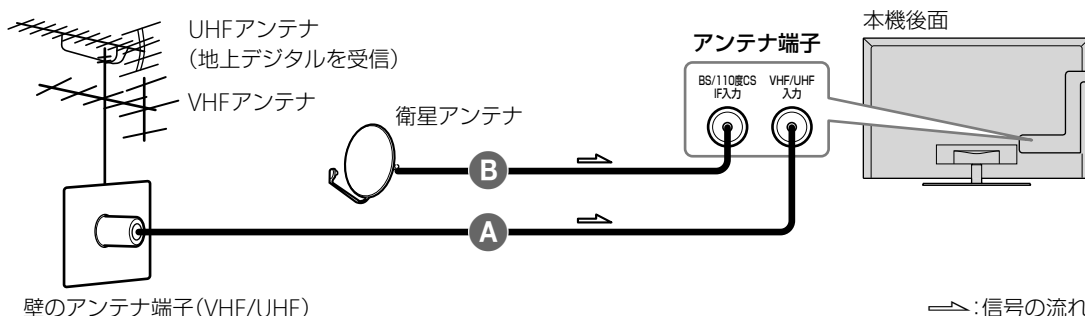
Ⓐ VHF/UHF用同軸アンテナケーブル（別売、EAC-DS15SS（2011年1月現在）など）

Ⓑ 衛星用同軸ケーブル（別売）

Ⓒ 110度CSデジタルに対応したCS/BS/地上波放送対応分波器（別売、EAC-DSSM2（2011年1月現在）など）

全端子電流通過型のCS/BS/地上波放送対応分配器（別売、EAC-DSD12（2011年1月現在）など）もご使用できます。

ご注意

F接栓型の芯線は、上記寸法以下のものをお使いください。
斜めに無理に差し込むと故障の原因になります。

地上波と衛星放送の信号が混合の場合

地上波と衛星放送の信号が個別の場合

⇀：信号の流れ

ご注意

曲がると金属部分に触れ、ショートの原因となります。

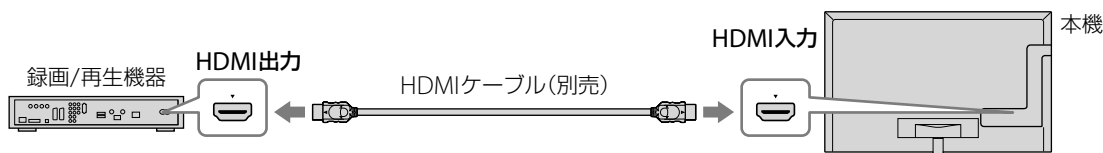
ちょっと一言

- 現在お使いのUHFアンテナやアンテナケーブルでも地上デジタルを受信できます。詳しくは、お買い上げ店にお問い合わせください。
- ケーブルテレビでも地上デジタルを受信・視聴できます。お住まいの地域のケーブルテレビで地上デジタルが放送開始されているかは、ケーブルテレビ放送会社にお問い合わせください。ケーブルテレビ放送会社によって送信方式が異なりますが、本機は パススルー方式のすべての周波数に対応しています。
- 衛星アンテナをつなぐと、高画質・高音質で、各種テレビ放送・データ放送・ラジオ放送が楽しめます。
- BSデジタルの有料放送や110度CSデジタルは受信契約が別途必要です。

録画/再生機器をつなぐ

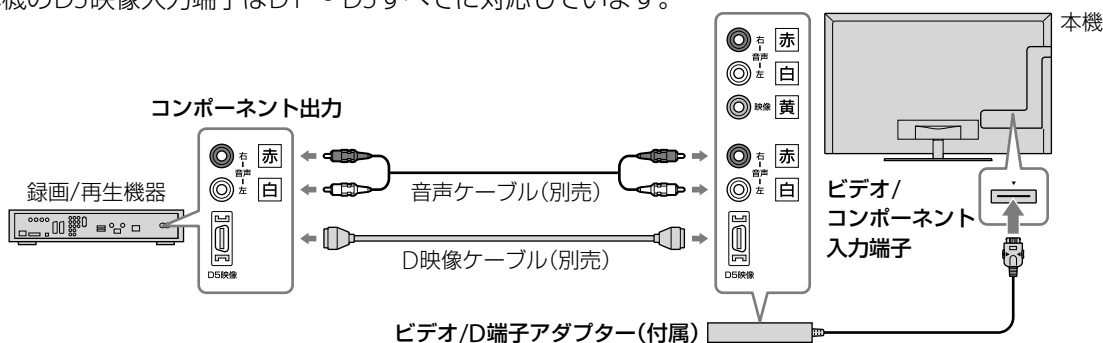
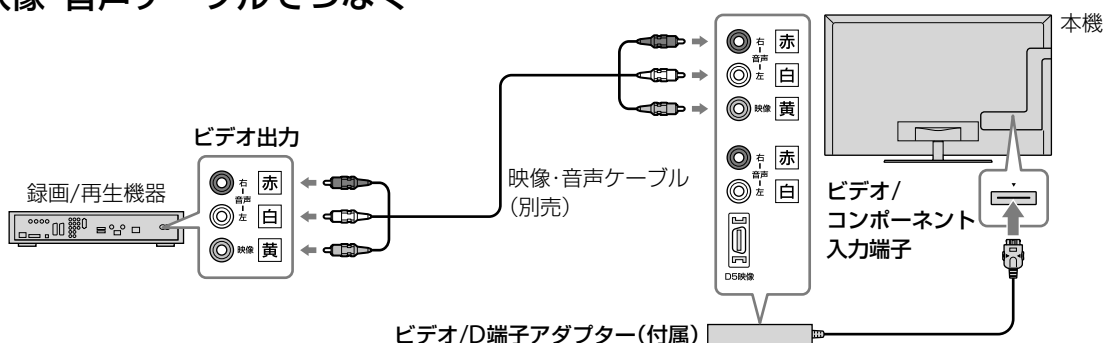
ブルーレイディスクレコーダーやDVDプレーヤーなどの録画/再生機器をつなぎます。 機器の出力端子に合ったケーブルをご使用ください。
機器によっては、アンテナ線の接続なども必要になります。つなぐ機器の取扱説明書をご確認ください。
デジタルカメラやデジタルビデオカメラをつなぐ場合は、本機のUSB端子につなぎます。詳しくは、「電子取説」をご覧ください。

HDMIケーブルでつなぐ

HDMIケーブルで本機と機器をつなぐと、映像と音声を1つのケーブルで、デジタル信号のまま劣化させずに伝送できます。よりよい映像で楽しむために、HDMIケーブルでの接続をおすすめします。

ご注意

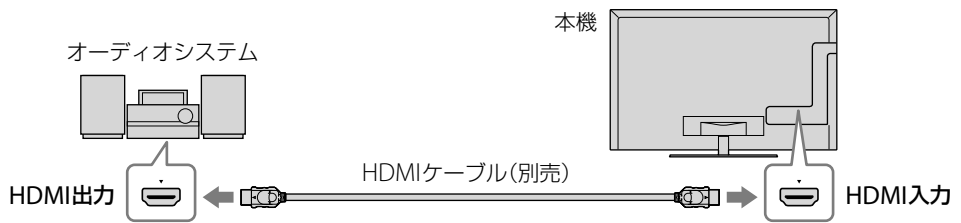
- ソニー製のHigh Speed HDMIケーブルをご使用ください。
- 市販のHDMIケーブルの中には、取り付けられないものもありますのでご注意ください。
- 下図の寸法以下のHDMIケーブルをご使用ください。

D映像ケーブルと音声ケーブルでつなぐ

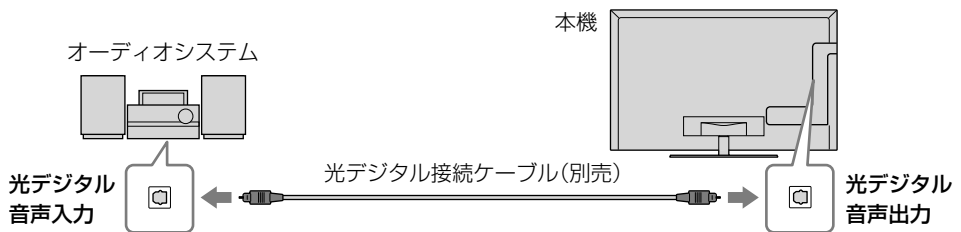
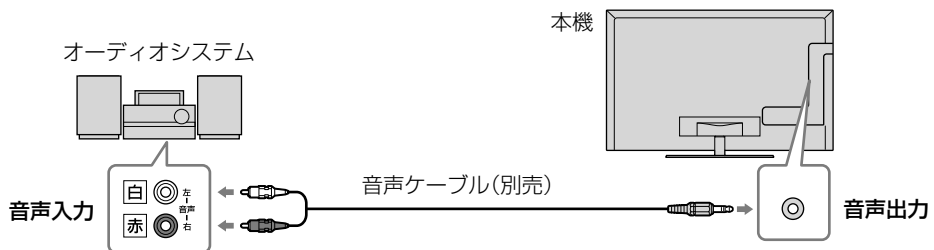
本機のD5映像入力端子はD1 ～ D5すべてに対応しています。

映像・音声ケーブルでつなぐ

オーディオシステムをつなぐ

オーディオシステムやホームシアター機器などをつなぎます。 機器の入力端子に合ったケーブルをご使用ください。

HDMIケーブルでつなぐ

Audio Return Channel(ARC)に対応しているオーディオシステムと接続する場合には、HDMIケーブルを使って本機のHDMI1入力端子につないでください。

ご注意

Audio Return Channel(ARC)に対応していないオーディオシステムと接続する場合は、HDMIケーブルに加えて、光デジタル接続ケーブルまたは音声ケーブルもつなぐ必要があります。

光デジタル接続ケーブルでつなぐ

音声ケーブルでつなぐ

ご注意

オーディオシステムを接続した場合、ホームボタンを押して、次のように選んでください。

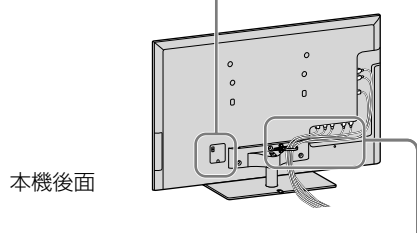
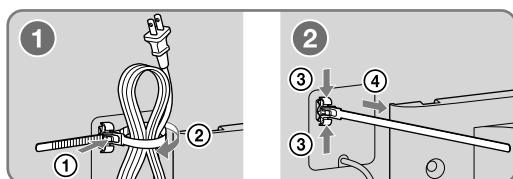
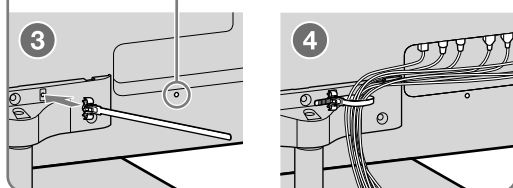
→[音質・音声設定]→[ヘッドホン・音声外部出力設定]→[音声外部出力]

ケーブルをまとめる

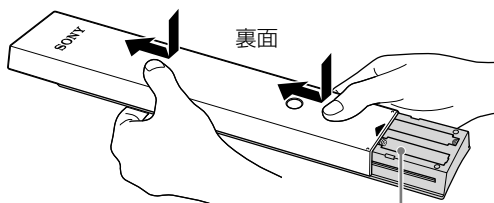
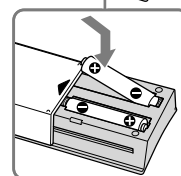
本機後面に付いているワイヤークランパーを取りはずしたあと、ワイヤークランパーを付け替えてケーブルをまとめます。

1. ワイヤークランパーから電源コードをほどく。
2. ワイヤークランパーをはずす。
3. ワイヤークランパーを取り付ける。
4. ケーブルをまとめる。

ご注意

電源コードはまとめないでください。

リモコンに電池を入れる

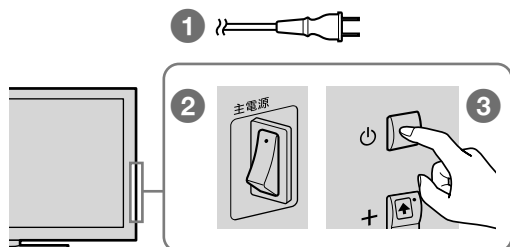
リモコンに電池を入れる。

1. 保護シートをはがす。
2. カバーをスライドさせる。

3. ⊖極側から電池を入れる。

ご注意

カバーをスライドさせるときに、指などをはさまないようにご注意ください。

かんたん初期設定をする

地上アナログ、地上·BS·110度CSデジタルの受信設定は、「かんたん初期設定」で一度にできます。

1 電源を入れる。

本機右側面

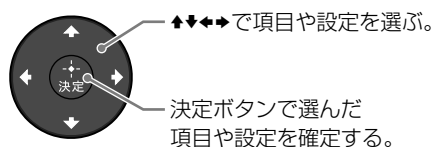
1 電源プラグをコンセントに差し込む。
2 主電源スイッチが「入」(●)であることを確認する。
3 ⏻(電源)スイッチを押す。
本機前面左側のI(電源ランプ)が、緑色に点灯していることを確認してください。

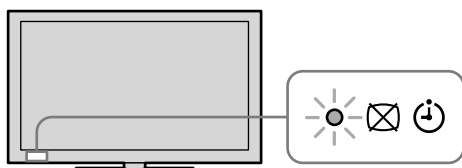
ちょっと一言

画面右下に「展示モードを実行中です。」と表示された場合は、「かんたん初期設定」でご家庭での視聴環境になるよう設定してください。

2 画面のメッセージに従い、リモコンで設定する。

↑↓←→で項目や設定を選ぶ。

決定ボタンで選んだ項目や設定を確定する。

ご注意

ご購入後の一回だけ、初期設定をする前に本機を快適に使うための処理をする必要があります。
処理中、約40秒間は画と音が消え、本機前面のタイマーランプがオレンジ色に点滅します。
処理中は電源を切らないでください。
(この処理は、製造時に実施されている場合があります。)

リモコンボタンに希望のチャンネルを割り当てる

「かんたん初期設定」を行うと、リモコンの数字ボタンのチャンネルは自動で割り当てられます。お好みのチャンネルと異なる場合は、手動でお好みのチャンネルに変更してください。

1 ホームボタンを押して、次のように選ぶ。

→[放送受信設定]→[デジタル放送受信設定]→[地上デジタル:プリセット登録]または[BS:プリセット登録]、[CS:プリセット登録]

2 お好みのチャンネルに変更する。

マンションなどの共同受信システムの設定をする

[BS·CS:衛星アンテナ設定]を[切]にしてください。

ホームボタンを押して、次のように選ぶ。

→[放送受信設定]→[アンテナ設定]→[BS·CS:衛星アンテナ設定]→[切]

かんたん初期設定をあとでやり直す

引越しなどでお住まいの地域が変わったときや地上デジタル放送が開始されたときは、「かんたん初期設定」をやり直してください。

1 ホームボタンを押して、次のように選ぶ。

→[かんたん設定]→[かんたん初期設定]

2 画面のメッセージに従って設定する。

テレビを見る

1 電源を入れる。

❶ 電源プラグをコンセントに差し込む。

❷ 主電源スイッチが「入」(●)であることを確認する。

❸ ⏻(電源)スイッチを押す。
本機前面左側のI(電源ランプ)が、緑色に点灯していることを確認してください。

2 見たい放送を選ぶ。

地上デジタル放送と地上アナログ放送を切り換えます。従来の地上アナログ放送も引き続きご覧いただけます。

放送を切り換えます。デジタル放送の高画質・高音質で多彩な番組をご覧いただけます。

3 チャンネルを選ぶ。

数字ボタンまたはチャンネル+/－ボタンでチャンネルを選びます。

番組表から選ぶには

デジタル放送を視聴しながら、放送中および1時間以内の番組を表示できます。

10キー選局するには

10キーボタンを押したあと、数字ボタンでチャンネル番号を入力して、最後に12ボタンを押します。

- 011ch(デジタル放送)の場合:
  10キー → 10 → 1 → 1 → 12
- 37ch(アナログ放送)の場合:
  10キー → 3 → 7 → 12

枝番が付いているチャンネルを選局するには

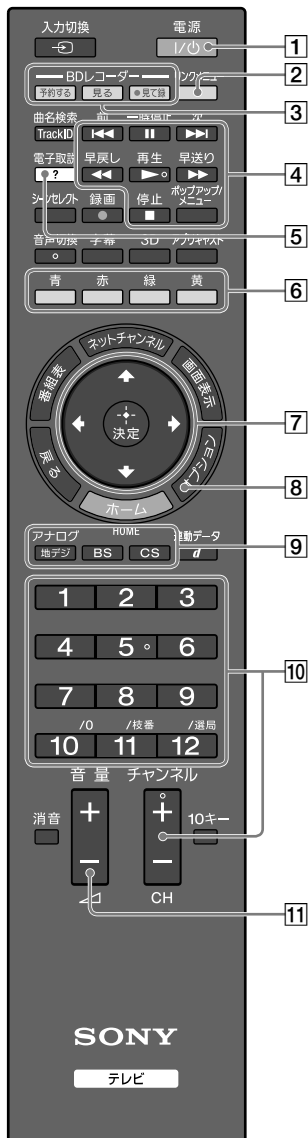
他の地域の放送も受信できる場合、重複するチャンネル番号を区別するために、補助的な番号(枝番)が付いています(地上デジタルのみ)。

- 011₂chの場合:
  10キー → 10 → 1 → 1 → 11 → 2 → 12

ちょっと一言

- 再生ボタン、音声切換ボタン、数字ボタンの「5」、チャンネル+ボタンの上には、凸点(突起)が付いています。操作の目印として、お使いください。
- お使いの機種により、使用できるボタンは異なる場合があります。

リモコンの基本機能を使う

付属のリモコンを使用してください。 ここではリモコンの基本的な操作を説明しています。リモコン機能の詳細については、電子取説ボタンを押して「電子取説」をご覧ください。

1 電源 I/⏻スイッチ
電源を入/ スタンバイします。

ちょっと一言
リモコンの裏側の I/⏻スイッチも使用できます。

2 リンクメニュー
HDMI 接続した機器をブラビアリンクで操作します。

3 BDレコーダーボタン
HDMI ケーブルでつないだブルーレイディスクレコーダーを操作します。

4 他機器操作ボタン
HDMIケーブルでつないだ機器やネットワーク機器などを操作します。

5 電子取説
本機に内蔵された「電子取説」を表示します。

6 カラーボタン(青、赤、緑、黄)
データ放送や「アクトビラ」、番組表などの画面操作で使います。
また「電子取説」を操作中に、操作ガイドで表示されているときに使えます。

7 ⬆⬇⬅➡ 決定
⬆⬇⬅➡でホームメニューなどの項目を選んだり、カーソルの移動をします。決定ボタンで選んだ項目を決定します。

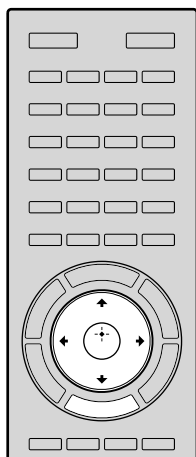
8 オプション
オプションを使うと、そのときにできる便利な機能の項目が表示され、通常の手順よりも早く操作できるようになります。⬆⬇で項目を選び決定ボタンを押します。

9 放送切換ボタン(アナログ/地デジ、BS、CS)
放送を切り換えます。

10 数字/チャンネル+/−
チャンネルを切り換えたり、数字を入力したりします。

11 音量+/−
音量を調節します。

ホームメニューを使う

番組表や外部入力、テレビをお好みの設定に変更するなど本機でできることの入り口となります。

1 ホームを押す。

2 ↑↓← →で項目を選んで、決定を押す。

3 ホームを押して、終了する。

ホームメニューから調整したい項目を選ぶには
（例えば、（設定）を選んだ場合）

① ← →を押して、（設定）のカテゴリーを選ぶ。
設定の項目が右側に表示されます。

② ↑↓を押して、[かんたん設定]を選ぶ。

③ 決定を押して、調整したい項目を変更する。

ご注意

イメージ/イラストは実際の表示と異なる場合があります。

使ってみる

ホームメニューカテゴリー一覧を表示する

リモコンの ホーム を押すと、画面にホームメニューが表示されます。この画面から各種操作・設定画面に移動できます。

	項目	説明
	設定	本機で必要なさまざまな設定ができます。
	アプリキャスト	アプリキャストを表示します。
	アプリケーション	音楽検索やインターネットブラウザーなどのアプリケーションを開きます。
	ネットチャンネル	〈ブラビア〉ネットチャンネルのコンテンツを見ることができます。
	おすすめ番組	視聴傾向に基づいて、おすすめの番組を表示します。
	録画	USBハードディスク機器をつないで、録画予約をしたり、録画済みの番組を再生したりできます。
	テレビ	放送やチャンネルを選んだり、番組表を表示したりできます。
	メディア	USB機器やネットワーク機器に保存されている、写真/音楽/映像ファイルを再生できます。
	入力切換	入力を切り換えて、本機につないだ機器の映像を見ることができます。
	お気に入り/履歴	お気に入りや最近見たチャンネルなどを表示します。

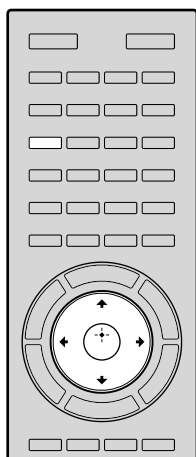
ご注意

- お使いの状況により、表示される項目は異なります。
- グレー表示の項目は選べません。

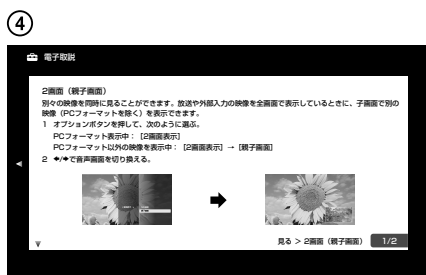
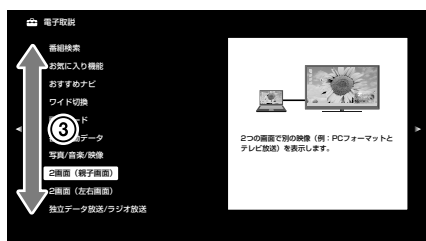
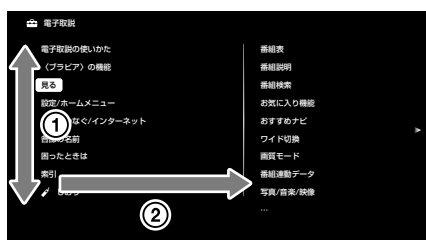
ちょっと一言

設定の詳細項目については、「電子取説」をご覧ください。

内蔵の取扱説明書（電子取説）を見る

本機は、テレビ本体にテレビ画面で見ることができる「電子取説」を搭載しています。必要なときにリモコンの電子取説ボタンを押せば、画面ですぐに見ることができます。

1 電子取説を押す。

2 ↑↓← →で項目を選んで、決定を押す。

④

「電子取説」から項目を選ぶには

① **↑↓を押して、1番目の層の項目を選ぶ。**
項目の内容が画面右側に表示されます。

② **→を押して、画面右側（次の層の項目）に移動する。**

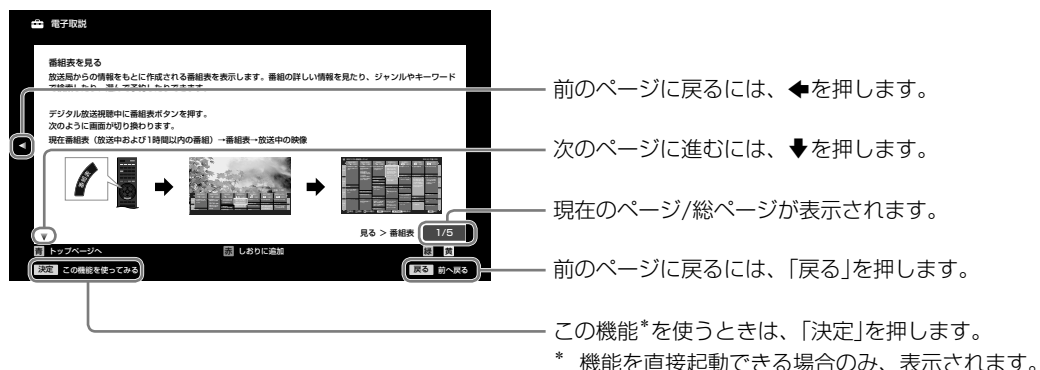
③ **↑↓を押して、画面左側から項目を選ぶ。**
プレビューが画面右側に表示されます。
3番目の層が利用可能であるなら、もう一度②③を行い、項目を選んでください。

④ **→を押す。**
項目の内容が全画面で表示されます。

ご注意

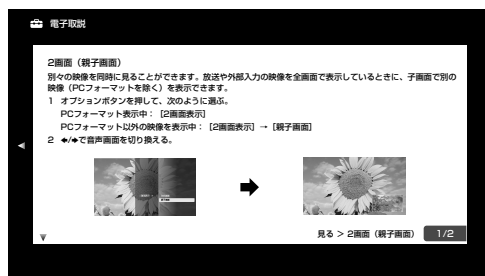
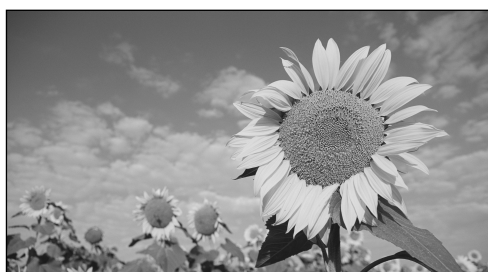
イメージ/イラストは実際の表示と異なる場合があります。

「電子取説」の操作画面を見る

「電子取説」の画面を進めたり、ページを送ったりできます。
また説明画面によっては、その機能を直接起動できます。

しおり機能を使う

「電子取説」にはしおり機能があります。リモコンのカラーボタンで登録したり解除することができます。
登録したしおり機能を使うには、トップページに戻り、[しおり]を選びます。

最後に表示されたページを見る

「電子取説」は最後に表示したページを記憶しています。「電子取説」の表示中に電子取説ボタンを押すと、テレビ画面に戻り、もう一度電子取説ボタンを押すと、前回見ていた情報が表示されます。「電子取説」のトップページを見るには、画面の指示に従ってトップページに戻るか、ホームボタンを押して、→[電子取説]を選んでください。

ご注意

電源を切ったり、スタンバイ状態になったときに、再び「電子取説」を表示した場合はトップページに戻ります。

インターネットの接続・設定をする

本機をインターネット回線につないで、インターネット上のさまざまなコンテンツを楽しめます。詳しくは「電子取説」をご覧ください。

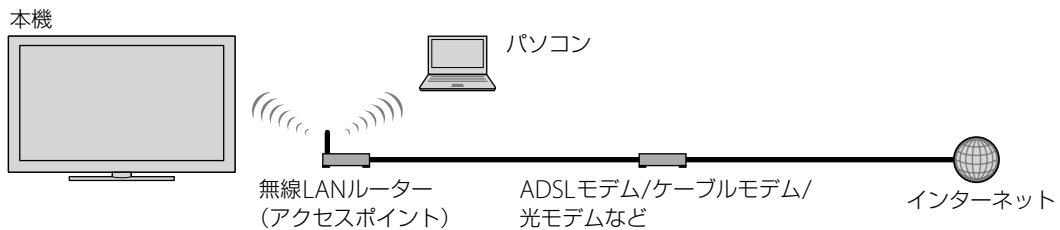
ご注意

インターネットのご利用には、インターネット回線事業者やプロバイダーと契約する必要があります。

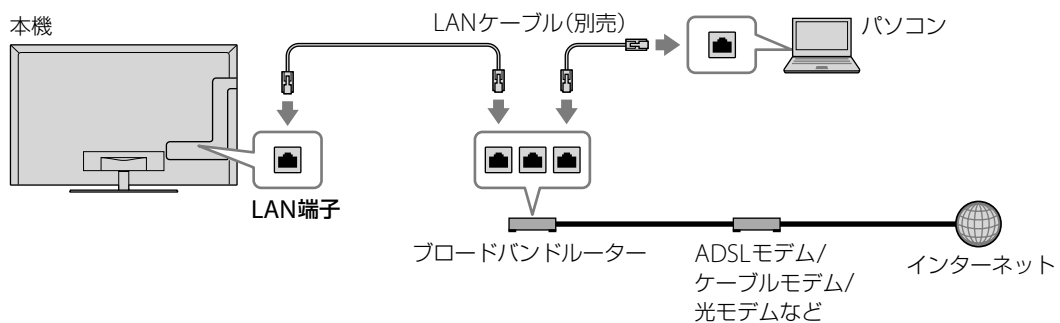
無線LANやLANケーブルでつなぐ

無線LANでつなぐ

本機内蔵の無線LANでインターネットやホームネットワークにつなぐことができます。ケーブルを使わずにLAN環境に接続できるので、とても便利です。

ご注意

- モデムとルーター（アクセスポイント）が一体化され、1つの機器で使用できる製品もあります。ご利用の環境をご確認ください。

LANケーブルでつなぐ

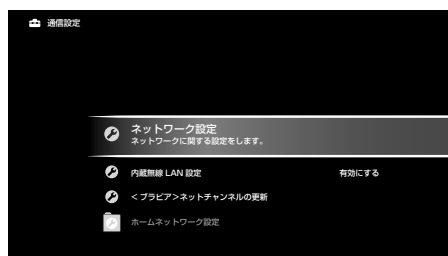
ブロードバンドルーターと、LANケーブル（別売）を使ってつなげます。

ご注意

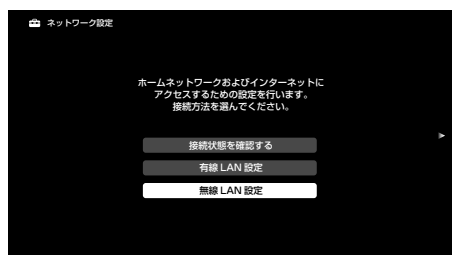
- LANケーブルは、カテゴリー5（CAT5）以上のケーブルを使用してください。
- モデムやブロードバンドルーターのWAN端子はインターネット回線用の端子のため、本機との接続は必ずLAN端子を使用してください。
- モデムとルーター（アクセスポイント）が一体化され、1つの機器で使用できる製品もあります。ご利用の環境をご確認ください。
- ルーター機能付きモデムのLAN端子に空きがない場合は、LAN用ハブをご用意ください。

ネットワークの設定をする

ネットワーク機能を使って、本機をインターネットに接続できます。お使いのネットワークやLANルーターの種類によって、設定手順は異なります。ルーターの設定については、お使いのLANルーターの取扱説明書をご覧ください。
また、ルーターの設定は、お使いのパソコンであらかじめ行い、ネットワークにつながることを確認してから、本機の設定を行なってください。

ホームボタンを押して、 →[通信設定]を選びます。

決定を押す。

[ネットワーク設定]を選びます。以降の設定は、無線LANでつなぐ場合は、引き続き「無線LANでつないだとき」をご覧ください。LANケーブルでつなぐ場合は、☞25ページをご覧ください。

無線LANでつないだとき

1 ↑↓で[無線LAN設定]を選ぶ。

2 決定を押す。

以降の設定手順は、お使いのネットワークや無線LANルーター(アクセスポイント)によって、異なります。次のチャートに従って、お使いの無線LAN環境に応じた設定を行なってください。
また、無線LANルーターの取扱説明書も合わせてご覧ください。セキュリティキー、SSIDは、無線LANルーターの側面や裏面に記載されています。ご不明なときは、無線LANルーターの製造会社にお問い合わせください。

お使いの無線LANルーター(アクセスポイント)は…

* 無線LANルーターによっては、AOSSボタンでWPSプッシュボタン方式に対応しているものもあります。

ご注意

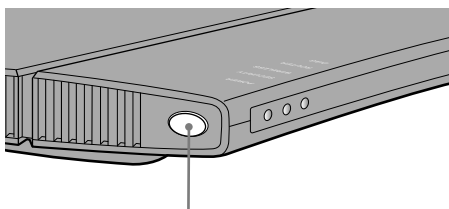
接続の際、WPS を使用すると無線LAN ルーターのセキュリティが有効になるため、セキュリティで保護されていない状態で無線LAN に接続されていた機器がつながらなくなります。この場合、つながらなくなった機器をセキュリティが有効な状態で再度接続設定をするか、無線LAN ルーターのセキュリティを無効にしたあと、セキュリティで保護されていない状態のままテレビと接続し直してください。

タイプ1

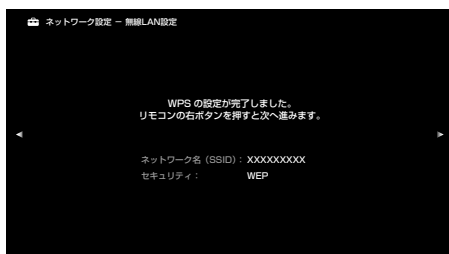
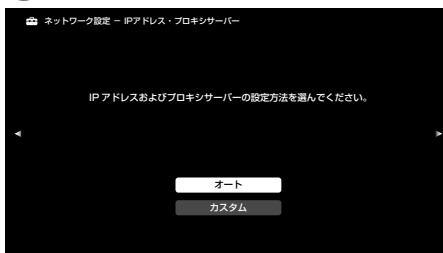
WPSボタンでセキュリティ保護されたネットワーク

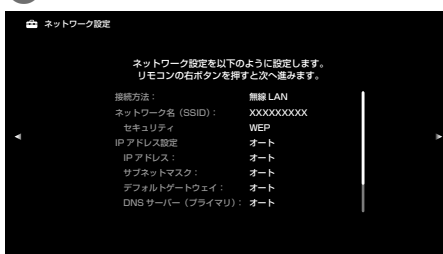
1 [WPS(プッシュボタン方式)]を↑↓で選んで決定を押す。

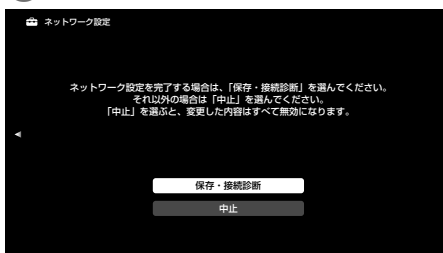
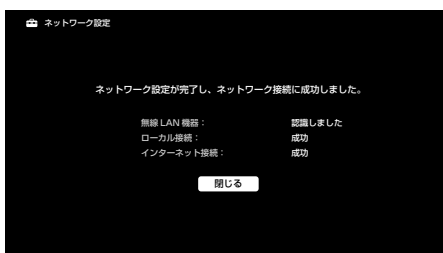
2 無線LANルーターのWPS(またはAOSS)ボタンを押す。

WPS(またはAOSS)ボタン

3 無線LANルーターと接続する。

① [開始]を選んで決定を押す。

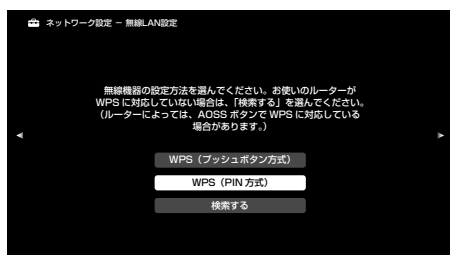
② ルーターとの接続が開始されて、以下の画面が表示されたら➡を押す。

4 IPアドレスと、プロキシサーバーの設定をする。

① [オート]を↑↓で選んで決定を押す。

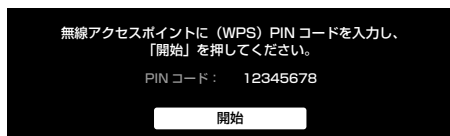
② 表示された設定内容を確認し、➡を押す。

5 設定の保存と、接続診断をする。

① [保存・接続診断]を↑↓で選んで決定を押す。

② 接続診断結果が表示されたら、[閉じる]を選んで決定を押す。

接続診断結果が「失敗」だった場合
お使いの無線LANルーターによっては、自動設定がうまくできない場合があります。その場合は、ルーターの電源を入り切りしてください。それでもつながらない場合は、タイプ2 の設定方法を試してください。

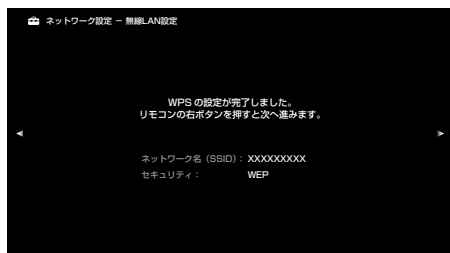
タイプ2

PINコードでセキュリティ保護されたネットワーク

1 [WPS(PIN方式)]を⬆⬇で選んで決定を押す。

2 無線LANルーターと接続する。

① 画面に表示されているPINコードを、無線LANルーターに入力し、[開始]を押す。

ちょっと一言

PINコードは、パソコンなどから入力してください。詳しい入力方法は、ルーターの取扱説明書をご覧いただくか、ルーターの製造会社にお問い合わせください。

② ルーターとの接続が開始されて、以下の画面が表示されたら➡を押す。

以降の設定手順については、「タイプ1 WPSボタンでセキュリティ保護されたネットワーク」の手順4以降をご覧になり、接続を完了させてください。

つながらない場合は、タイプ3 の設定方法を試してください。

タイプ3

WPS(Wi-Fi Protected Setup)に対応していないネットワーク

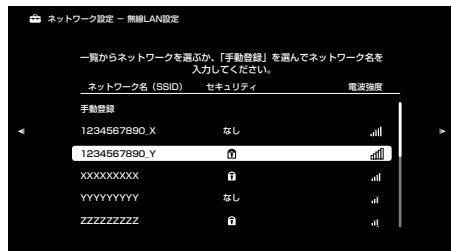
1 無線LANルーターのセキュリティキー、SSIDを確認する。

ちょっと一言

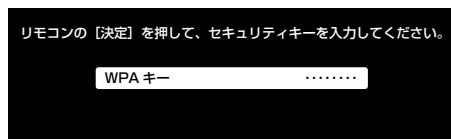
セキュリティで保護されていない無線LANルーターをお使いの場合は、セキュリティキーの設定は必要ありません。

2 [検索する]を↑↓で選んで決定を押す。

3 無線LANルーターと接続する。

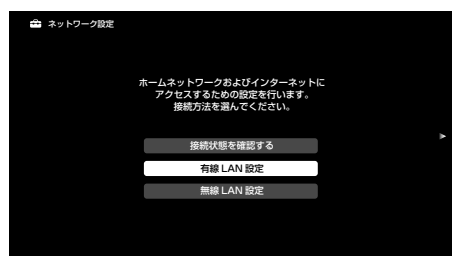
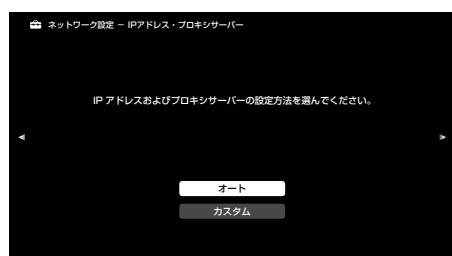
1. 無線ネットワークの一覧の中から↑↓で接続したいネットワーク名(SSID)を選び、→を押す。

ちょっと一言

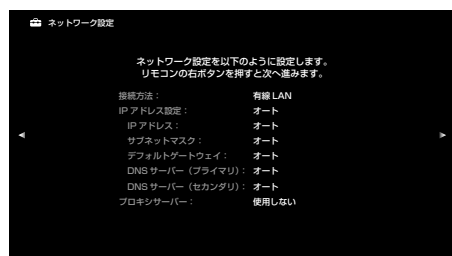
ネットワーク名(SSID)が表示されない場合は、[手動登録]で無線LANルーターのSSIDを入力してください。

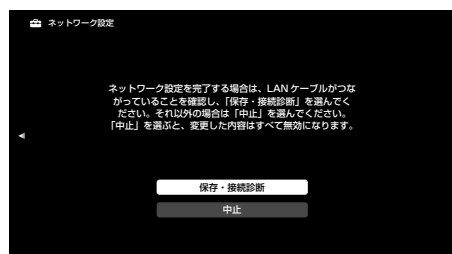
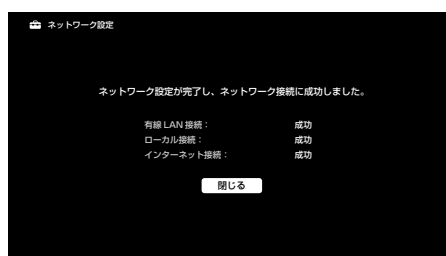
2. 決定を押し、無線LANルーターのセキュリティキー(WEPキーまたはWPAキー)を入力して、→を押す。

以降の設定手順については、「タイプ1 WPSボタンでセキュリティ保護されたネットワーク」の手順4以降をご覧になり、接続を完了させてください。

うまく接続できない場合は、
ホームネットワーク相談窓口にお問い合わせください。
電話:0120-776-933(フリーダイヤル)
以下のホームページでも、サポート情報を確認できます。
http://www.sony.jp/support/tv/

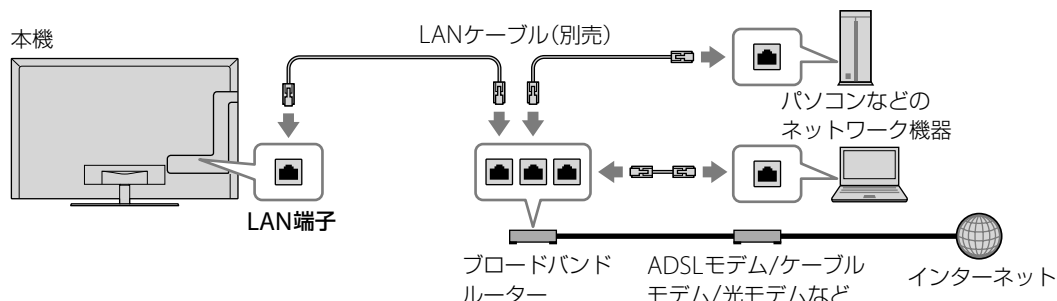
LANケーブルでつないだとき

1 [有線LAN設定]を↑↓で選んで決定を押す。

2 IPアドレスと、プロキシサーバーの設定をする。

① [オート]を↑↓で選んで決定を押す。

② 表示された設定内容を確認し、→を押す。

3 設定の保存と、接続診断をする。

① [保存･接続診断]を↑↓で選んで決定を押す。

② 接続診断結果が表示されたら、[閉じる]を選んで決定を押す。

接続診断結果が「失敗」だった場合
お使いのルーターの設定によっては、自動的に接続できない場合があります。ルーターの取扱説明書を参考に、IPアドレスなどの設定が自動的に行えるようになっているかなどを確認してください。

ホームネットワークにつなぐ

ホームネットワークにつないで、他の部屋にあるネットワーク機器のコンテンツ（写真/音楽/映像など）を本機で楽しめます。ネットワークの設定については、「ネットワークの設定をする」（☞21ページ）をご覧ください。

ご注意

- モデムとルーター（アクセスポイント）が一体化され、1つの機器で使用できる製品もあります。ご利用の環境をご確認ください。
- ルーター機能付きモデムのLAN端子に空きがない場合は、LAN用ハブをご用意ください。

写真/音楽/映像を再生する

ネットワーク機器（サーバー）に保存されている写真/映像/音楽を本機で再生できます。

1 ホームボタンを押して、次のように選ぶ。
　▶ →［フォト］/［ミュージック］/［ビデオ］→ ネットワーク機器（サーバー）
2 再生したいファイルまたはフォルダーを選ぶ。

ご注意

- ネットワーク機器の設定を変更した場合は、主電源スイッチのある機種では、主電源スイッチで主電源を入れ直してからリモコンまたは本体の電源 I/⏻スイッチで電源を入れてください。主電源スイッチのない機種では、一度電源コードを抜いて電源を切ってから、電源を入れ直してください。
- ネットワーク機器側で登録が必要な場合があります。詳しくは、機器の取扱説明書をご覧ください。
- ［フォト］や［ビデオ］はファイルによっては拡大して表示されるため、画質が粗くなることがあります。また、サイズや横縦比によっては、画面いっぱいに表示されないことがあります。
- ［フォト］では、ファイルや設定によっては、静止画の表示に時間がかかるものがあります。
- 静止画にGPS情報があるときは地図が表示されます。地図を消したいときはオプションの［再生方法］で［地図画像表示］を［非表示］にしてください。
- リモコンの画面表示ボタンで、再生状態·再生時間などの情報パネルを表示/非表示できます。

レンダラーで再生する

ホームネットワークを通して、デジタルカメラや携帯電話などの対応機器を操作して、機器の写真や音楽ファイル、映像ファイルを本機で再生できます。
レンダラー対応機器がコントローラーとして必要です。コントローラーの取扱説明書もあわせてご覧ください。

ご注意

- 本機でも設定をしてください。
  ホームボタンを押して、次のように選びます。
  🧰 →［通信設定］→［ホームネットワーク設定］→［レンダラー設定］→ 設定したい項目
- コントローラーとして、VAIOにインストールされているVAIO Media PlusやWindows 7のWMP12などが使用できます。

ネットワーク録画をする

ホームネットワークを通して、本機と離れたところに設置しているネットワーク録画に対応したソニー製録画機器（2007年9月以降発売）に、本機で設定した録画予約情報を送信します。

1 ホームボタンを押して、次のように選ぶ。
　→［番組表］→ 録画する番組
2 番組説明画面で［録画対象］を選び、［外部録画機器］を選ぶ。
3 ［録画予約］を選ぶ。
4 設定欄の［機器名　接続］を選ぶ。
5 「接続」が「LAN」の録画機器を選ぶ。
6 ［予約確定］を選ぶ。

ご注意

- 放送時間が変更になった場合などは、変更に合わせた録画はできません。
- 予約情報が録画機器に送信されたあとは、本機に予約情報は残りません。予約の修正や削除をする場合は、録画機器で操作してください。
- 契約が必要なチャンネルの番組を録画予約するときは、録画機器に契約済みのB-CASカードを入れてください。
- ハードディスクレコーダー･DVDレコーダー複合機などのときは、録画予約する前に、複合機器側で録画する機器（HDDやDVDなど）を選んでおいてください。
- ［録画予約］を選んですぐに他の画面に切り換えると、「設定を中止します。予約済の可能性がありますので、録画機器側で確認してください。」というメッセージが表示されます。録画機器で予約できているか確認してください。
- 番組情報取得の状況によっては、番組説明画面に番組名などが表示されません。
- 録画予約設定画面の、［日付］、［開始時刻］、［終了時刻］を変更するには、設定欄から変更したい項目を選んで、設定してください。［日付］は前後1日ずつ変更できます。

本機にネットワーク機器を登録する

より便利に使うために、接続したネットワーク機器（サーバー）ごとに、ホームメニュー上に表示して選べるように設定できます。接続したネットワーク機器は10台まで自動的に設定されます。

1 ホームボタンを押して、次のように選ぶ。
　→［通信設定］→［ホームネットワーク設定］→［接続サーバー設定］
2 サーバーを選んで、表示するかどうかを設定する。

ご注意

接続したネットワーク機器は、10台まで自動的に設定されます。

接続サーバーの診断をする

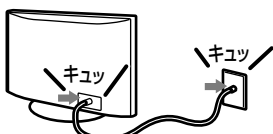
ホームネットワークにうまく接続できないときに、本機でネットワーク機器（サーバー）を正しく認識できるか確認します。診断結果が失敗だったときは、理由と対処方法を見て接続や設定を確認してください。

1 ホームボタンを押して、次のように選ぶ。
　→［通信設定］→［ホームネットワーク設定］→［接続サーバー診断］
2 接続サーバー診断が終わったら、確認したいサーバーを選ぶ。
3 診断結果内容を確認する。

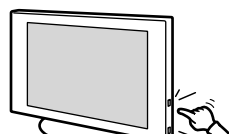
故障かな？と思ったら

「電子取説」の「困ったときは」もあわせてご覧ください。
インターネットのホームページでもよくあるお問い合わせ「Q&A」を紹介しています。
http://www.sony.jp/support/tv/faq/

まず確認してください

アンテナ線（VHF/UHF用同軸アンテナケーブル）をしっかりつなぐ。

- ゆるんだり、抜けたりしていないか。
- 芯線が曲がっていないか（☞9ページ）。

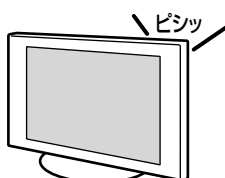
電源コードをしっかりつなぐ。

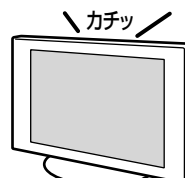
主電源スイッチと⏻（電源）スイッチを入れる。

こんな場合は故障ではありません

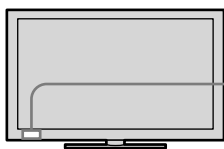
画面に光る点、または光らない点がある。

輝点・滅点

液晶テレビの映像は微細な画素の集合です。
画面の一部に画素欠けや輝点が存在する場合があります。

「ピシッ」というきしみ音が出る。

電源を入れているかどうかに関わらず、周囲との温度差でキャビネットが伸縮し、「ピシッ」という音が出ることがあります。

電源を入れたときや電源スタンバイ時に「カチッ」と音がする。

電源を入れたときは、内部の回路が働くため音がします。
また電源スタンバイ時は、データ受信やソフトウェアの書き換えのために本機の電源が自動的に入り、音がすることがあります。本機前面の⊠ ⏻ランプがオレンジ色に点滅しますが、故障ではありません。

自己診断表示機能が働いています

画面が消え、本機前面の⏻ランプが赤色に点滅する。
本機に何らかの異常が起きています。⏻ランプの点滅回数をご確認のうえ、ソニーご相談窓口にお問い合わせください。

症状	対処のしかた	参照ページ
本機の**電源が突然切れた**/いつのまにか消えていた。	• [無操作電源オフ]を設定していると自動的に電源が切れます。	
	• [オンタイマー]を利用して電源を入れた場合、設定した視聴時間を経過すると、電源が切れます。	
	• [人感センサー]を設定していると、一定の時間内に人の顔や動きを検知しなかったときは消画になります。さらに[自動電源オフ]を[入]に設定していると、消画になって30分経過すると自動的に電源が切れます(電源スタンバイ)。消画になるまでの時間は設定によって異なります。ホームボタンを押して次のように選び、確認してください。 →[機能設定]→[省エネ設定]→[人感センサー]	
リモコンで**本機を操作できない。**	• 操作したときに裏の I/⏻スイッチが点滅したら、電池の電圧が不足していますので、電池の交換が必要です。電池を交換してください。	12
	• ⊖極側から電池を入れてください。電池の⊕⊖が正しい向きになっているか確認してください。	12
	• 本体の主電源スイッチを「入」の状態にしてください。	13
	• 本機やリモコンを金属製のテーブルやラックなどに設置するとリモコンの無線通信に支障をきたし操作できないことがあります。	
	• 近くに電子レンジや無線装置があるときはリモコンで操作できないことがあります。	
	• リモコンをもう一度登録してください。 本体のホームボタンを押して、→[かんたん設定]→[リモコン登録]の順に選びます。	
	• リモコン先端部を手などで覆わないようにして操作してください。	
	• リモコンは最後に登録した1台のテレビしか操作できません。	
	• ブラビアリンク対応機器の操作モードになっています。リンクメニューボタンを押して、[テレビの操作]→[ホーム(メニュー)]または[オプション]を選び、本機を操作してください。	
リモコンに**録画機器を登録できない。**	• 本機に付属のリモコンは、録画機器の登録に対応していません。	
HDMI入力に切り換えるとリモコンで操作できない。	• リンクメニューに対応していないHDMI機器の可能性があります。 リンクメニューボタンを押して、[テレビの操作]→[ホーム(メニュー)]→→[外部入力設定]→[HDMI機器制御設定]→[リモコン操作ボタン設定]→[標準]の順に選びます。	
画像が**乱れる。**	• アンテナ線は電源コードからできるだけ離してください。	
	• これまでお使いのUHFアンテナを地上デジタル用に使用すると、受信エリア内であってもアンテナ設置状態、屋内配線状態でうまく映らなかったり、画面が乱れたりすることがあります。お買い上げ店などにお問い合わせください。	9
本機の周辺が**熱い。**	• 長時間使用したときなどに、本機の上部や後面が熱くなり、手で触れると熱く感じることもあります。	

別売アクセサリーを取り付ける

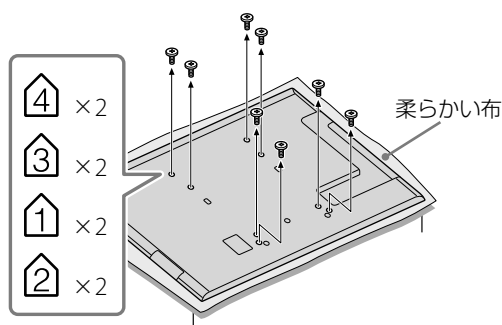
本機は以下の別売アクセサリーに対応しています（2011年1月現在）。

- 壁掛けユニット
  SU-WL700/SU-WL500
- フロアスタンド
  SU-FL71M（KDL-55HX920, KDL-55HX820を除く）/SU-FL71L

壁掛けユニットは確実な取り付けが必要です。テレビの機種名を確認して、指定された壁掛けユニットを使用してください。また、必ず壁掛けユニットの取扱説明書もご覧になり、確実に行ってください。

壁に取り付ける場合は、必ず指定の壁掛けユニットを使用し、専門業者に取り付けを依頼してください。また、取り付け時には設置関係者以外近づかないでください。
専門業者以外の人が取り付けたり、壁への取り付けが不適切だと、テレビが落下したりして、打撲や骨折など大けがの原因となることがあります。

本機に壁掛けユニットやフロアスタンドを取り付ける場合、テレビ後面からネジをはずす必要があります。

ご注意

- 柔らかい布などを敷いた台に画面を下にしてテレビを載せてください。
- 取りはずしたネジは、子どもがさわらないように安全な場所に保管してください。
- テレビに付属のスタンドに戻す場合は、必ず保管したネジを元の場所に取り付けてください。

その他

SU-WL700を使う

本機との設置について

別売アクセサリーの取扱説明書にある設置手順に対応して本機では以下の作業が必要です。本書とあわせてアクセサリーの取扱説明書もご覧ください。設置手順のあとに(　)付きの数字が表示されている説明では、別売アクセサリーの取扱説明書で同じ数字のある説明もご覧ください。

1 壁掛けユニットの部品を確認する(1)。

壁掛けユニットの取扱説明書をご覧ください。

2 取り付け位置を決める(2-1)。

この取扱説明書☞33ページのテレビ取り付け寸法表をご覧になり、取り付け位置を決めてください。テレビの周囲には、壁掛けユニットの取扱説明書で示す寸法の空きが必要です。

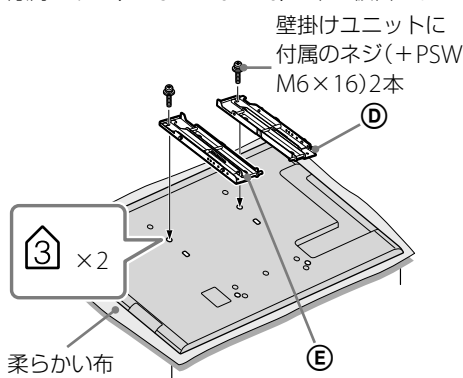
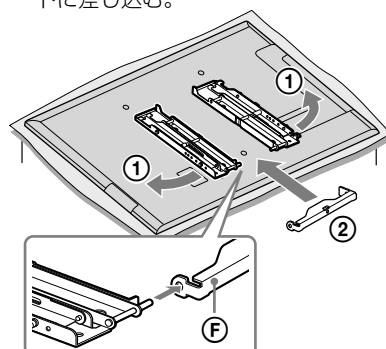
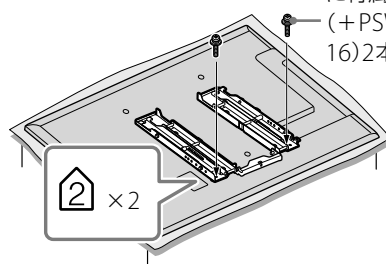
3 ベースブラケットを壁に取り付ける(2-2 ～ 3)。

ネジ穴の位置を確認し、ベースブラケットを壁に取り付けてください。詳しくは、壁掛けユニットの取扱説明書をご覧ください。

4 必要に応じてスタンドをはずす(4-1)。

スタンドのはずしかたは☞本書の6ページをご覧ください。

5 マウンティングブラケットとロックブラケットを取り付ける。

1 マウンティングブラケットを壁掛けユニットに付属のネジ(＋PSW M6×16) 2本で仮留めする。

2 ロックブラケットを取り付ける。
① マウンティングブラケットを外側に開く。
② ロックブラケットをマウンティングブラケットに差し込む。

3 マウンティングブラケットをテレビに固定する。

6 マウンティングブラケットの角度を調整する(4-7)。

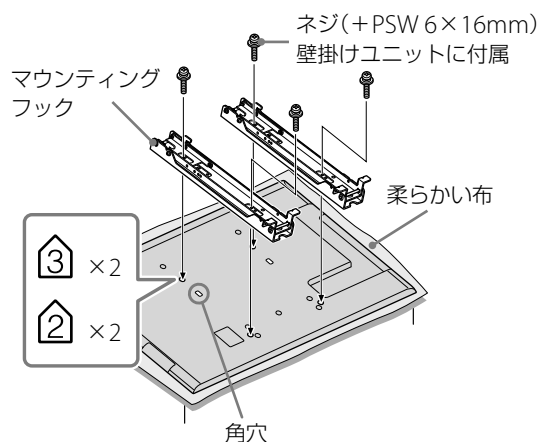
壁掛けユニットの取扱説明書をご覧ください。

7 型紙を準備する(5-2)。

1 この取扱説明書のテレビ取り付け寸法表をご覧になり、テレビの幅に合わせた目印を型紙に付ける。

2 壁掛けユニットの取扱説明書をご覧になり、型紙を壁に貼る。

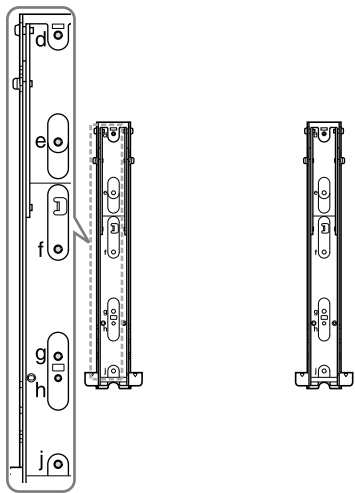
引き続き壁掛けユニットの取扱説明書をご覧になり、テレビを壁に取り付けてください(5-3 ～ 6)。

SU-WL500を使う

下記もご覧ください。
- 壁掛けユニットの取扱説明書
- 「テレビ取り付け寸法表」(☞本書の33ページ)
- 「スタンドを取りはずす」(☞本書の6ページ)

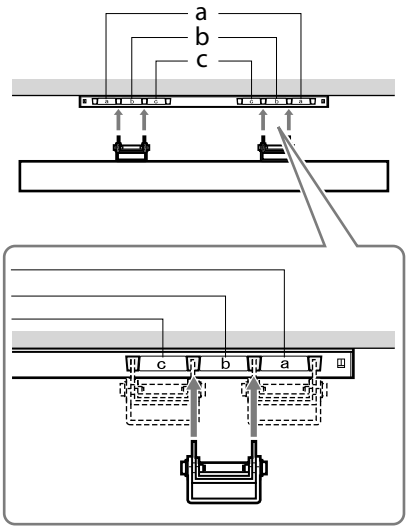
ネジ・フック位置一覧表

テレビ型名	ネジ位置	フック位置
KDL-55HX920	e、j	b
KDL-46HX920	e、j	b
KDL-55HX820	e、j	b
KDL-46HX820	e、j	b
KDL-46NX720	e、j	b
KDL-40NX720	e、j	b

ネジ位置

マウンティングフックをテレビに取り付ける場合

フック位置

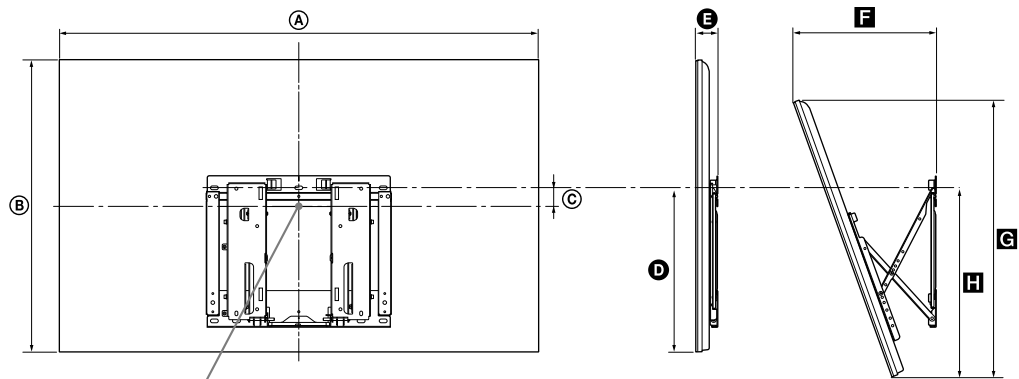
テレビをベースブラケットに取り付ける場合

その他

テレビ取り付け寸法表

取り付け寸法は取り付け状態により若干異なることがあります。

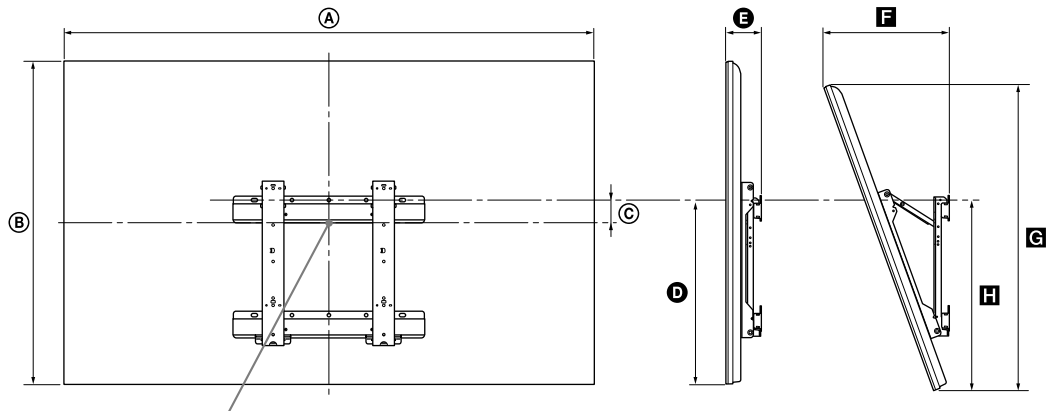
⚠警告

取り付ける壁にはテレビ質量の4倍に耐えられる強度を要します。
テレビの質量は☞本書の36ページをご覧ください。

SU-WL700

テレビを取り付けたときの画面の中心位置

単位：mm

テレビ型名	テレビ寸法		画面中心寸法	取り付け角度による長さ				
				角度0°		角度20°		
	Ⓐ	Ⓑ	Ⓒ	D	E	F	G	H
KDL-55HX920	1,278	771	5	393	58	376	728	455
KDL-46HX920	1,081	660	51	393	58	338	623	455
KDL-55HX820	1,280	774	5	395	47	366	729	453
KDL-46HX820	1,083	663	51	395	47	328	625	453
KDL-46NX720	1,084	663	51	395	47	328	625	452
KDL-40NX720	949	587	103	395	47	302	554	452

SU-WL500

テレビを取り付けたときの画面の中心位置

単位：mm

テレビ型名	テレビ寸法		画面中心寸法	取り付け角度による長さ				
				角度0°		角度20°		
	Ⓐ	Ⓑ	Ⓒ	D	E	F	G	H
KDL-55HX920	1,278	771	65	462	98	331	728	479
KDL-46HX920	1,081	660	120	462	98	293	623	479
KDL-55HX820	1,280	774	65	464	87	321	729	477
KDL-46HX820	1,083	663	120	464	87	283	625	477
KDL-46NX720	1,084	663	120	464	87	283	625	476
KDL-40NX720	949	587	157	464	87	257	554	476

フロアスタンドを使う

本機との設置について

別売アクセサリーの取扱説明書にある設置手順に対応して本機では以下の作業が必要です。本書とあわせてアクセサリーの取扱説明書もご覧ください。

はじめにフロアスタンドに付属の取扱説明書の「1 フロアスタンドを組み立てる」をご覧になり、フロアスタンドを組み立ててください。
組み立て後、「2 テレビの取り付け準備をする」のかわりに、次の手順を行ってください。

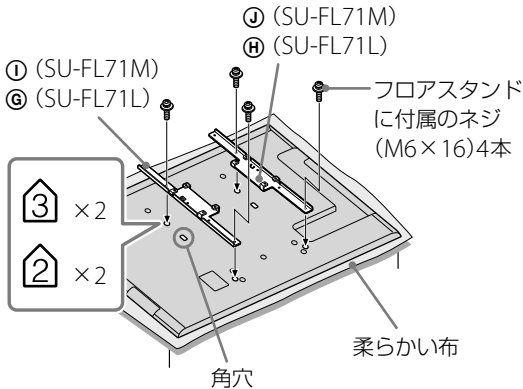
1 必要に応じてテレビに付属のスタンドをはずす。

スタンドのはずしかたは☞本書の6ページをご覧ください。

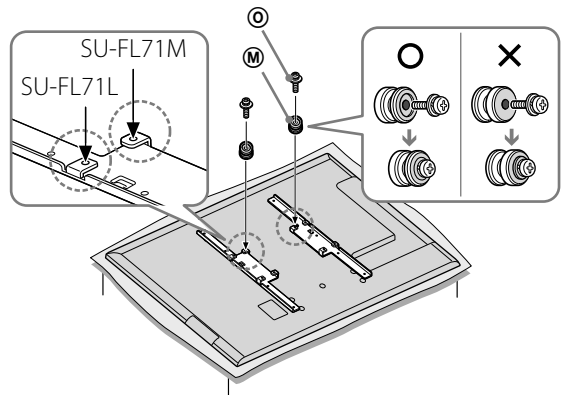
ご注意

テレビに付属のスタンドに戻す場合は、必ず保管したネジを元の場所に取り付けてください。

2 ブラケットをテレビに取り付ける。

1. テレビ後面からネジをはずす（☞本書の30ページ）。
2. フロアスタンドに付属のネジ（M6×16）4本で固定する。

ご注意

角穴が中央より上部になるように、左右を正しく置いてください。

3 フックⓂをブラケットに取り付ける。

引き続きフロアスタンドの取扱説明書をご覧になり、テレビをフロアスタンドに取り付けてください（3 ～ 5）。

その他

主な仕様

システム	受信方式	NTSC方式、地上デジタル放送方式、BSデジタル放送方式、110度CSデジタル放送方式
	受信チャンネル	地上アナログ:VHF 1 ～ 12チャンネル、UHF 13 ～ 62チャンネル CATV(ケーブルテレビ放送会社との受信契約が必要):C13 ～ C63 地上デジタル・BSデジタル・110度CSデジタル(テレビ・ラジオ・独立データ)の各チャンネル
	BSデジタル・110度CSデジタル対応周波数	1022MHz ～ 2072MHz
	BSデジタル・110度CSデジタル対応ローカル周波数	10.678GHz
	使用スピーカー	KDL-55HX920:フルレンジ3×15cm(2)、ウーファー 4×9cm(1) KDL-46HX920:フルレンジ3×15cm(2)、ウーファー 6cm(1) KDL-55/46HX820:フルレンジ2×7.5cm(4)、ウーファー 4×9cm(1) KDL-46/40NX720:フルレンジ2×9cm(2)、ウーファー 6cm(1)
	音声出力(実用最大出力)	10W+10W+10W
入出力端子	アンテナ端子	VHF/UHF、BS/110度CS IF 75Ω F型コネクター(コンバーター用電源出力、DC15/11V最大4W、芯線側+、オート/入/切、メニュー切り換え)
	ビデオ入力端子	映像:ピンジャック 音声:ピンジャック、2チャンネル
	コンポーネント入力端子	D5映像:D端子 音声:ピンジャック、2チャンネル
	HDMI1 ～ 4入力端子	映像(2D): 480i、480p、720/24p/30p、720p、1080i、1080/24p/30p、1080p 映像(3D): フレームパッキング 720/24p/30p、720p、1080i、1080/24p/30p サイドバイサイド 720p、1080i、1080/24p、1080p トップアンドボトム 720p、1080i、1080/24p/30p、1080p 音声:2チャンネル リニアPCM(32/44.1/48 kHz、16/20/24ビット)、ドルビーデジタル、MPEG2 AAC(デジタル放送) アナログ音声:PC音声入力端子(ミニジャック)と兼用 (HDMI4入力のみ) Audio Return Channel(ARC)対応(HDMI1入力のみ)
	音声出力端子(ヘッドホン端子兼用)	ステレオミニジャック
	光デジタル音声出力端子	角型端子、PCM(32kHz、44.1kHz、48kHz)、ドルビーデジタル、MPEG2 AAC(デジタル放送)
	LAN(10/100)端子	10BASE-T/100BASE-TXコネクター(ネットワークの使用環境により、接続速度に差が生じることがあります。本機は10BASE-T/100BASE-TXの通信速度や通信品質を保証するものではありません。)
	PC入力端子	RGB映像:Mini D-Sub15ピン 音声:ステレオミニジャック
	USB端子	Hi-Speed USB USB1端子、USB2 HDD録画端子

	型 名	KDL-55HX920/55HX820	KDL-46HX920/46HX820/ 46NX720	KDL-40NX720
電源部、その他	動作温度	0℃～40℃		
	動作湿度	10%～80%（結露なきこと）		
	消費電力	183W	KDL-46HX920：144W KDL-46HX820：153W KDL-46NX720：127W	124W
	消費電力 （リモコン待機時）	0.2W（データ取得時を除く）	0.15W（データ取得時を除く）	
	年間消費電力量 （スタンダード時）	KDL-55HX920：193kWh/年 KDL-55HX820：167kWh/年	KDL-46HX920：138kWh/年 KDL-46HX820：138kWh/年 KDL-46NX720：121kWh/年	119kWh/年
	区分名	DH（FHD、液晶4倍速、付加機能なし）	KDL-46HX920/46HX820： DH（FHD、液晶4倍速、付加機能なし） KDL-46NX720：DG（FHD、液晶倍速、付加機能なし）	DG（FHD、液晶倍速、付加機能なし）
	受信機型サイズ	55V	46V	40V
	パネル解像度	1920×1080×3（RGB）（ドット：水平×垂直）		
	有効画面サイズ （幅・高さ・対角）	121.0・68.0・138.8cm	101.8・57.3・116.8cm	88.6・49.8・101.6cm
	視野角（左右/上下）	178/178度（JEITA規格準拠コントラスト比10:1）		
	最大外形寸法 （最大突起部分を除く） （幅×高さ×奥行き）	KDL-55HX920：127.8×77.1×3.8cm、127.8×80.3×30.8cm（スタンド含む） KDL-55HX820：128.0×77.4×2.7cm、128.0×80.4×30.5cm（スタンド含む）	KDL-46HX920：108.1×66.0×3.8cm、108.1×69.2×25.8cm（スタンド含む） KDL-46HX820：108.3×66.3×2.7cm、108.3×69.3×25.5cm（スタンド含む） KDL-46NX720：108.4×66.3×2.7cm、108.4×69.4×25.8cm（スタンド含む）	94.9×58.7×2.7cm、94.9×61.8×21.3cm（スタンド含む）
	質量	KDL-55HX920：26.1kg 31.6kg（スタンド含む） KDL-55HX820：23.2kg 28.3kg（スタンド含む）	KDL-46HX920：19.4kg 24.0kg（スタンド含む） KDL-46HX820：16.8kg 21.1kg（スタンド含む） KDL-46NX720：15.8kg 20.2kg（スタンド含む）	13.1kg 17.0kg（スタンド含む）
	電源	AC100V、50/60Hz		
	別売アクセサリー	テレビスタンド：SU-B551S（KDL-55HX920, KDL-55HX820のみ） SU-B461S（KDL-46HX920, KDL-46HX820, KDL-46NX720のみ） SU-B401S（KDL-40NX720のみ） 壁掛けユニット：SU-WL700/WL500 フロアスタンド：SU-FL71M（KDL-46HX920, KDL-46HX820, KDL-46/40NX720のみ） SU-FL71L 3Dメガネ：TDG-BR250/BR100/BR50 USB無線LANアダプター：UWA-BR100 カメラ・マイクユニット：CMU-BR100		

- 受信機型サイズ（40Vなど）は、有効画面の対角寸法を基準とした大きさの目安です。
- このテレビは日本国内用です。電源電圧、放送規格の異なる外国ではお使いになれません。
- 仕様および外観は改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。
- 「JIS C 61000-3-2適合品」です。
  JIS C 61000-3-2適合品とは、日本工業規格「電磁両立性-第3-2部：限度値-高調波電流発生限度値（1相当たりの入力電流が20A以下の機器）」に基づき、商用電力系統の高調波環境目標レベルに適合して設計・製造した製品です。

区分名と年間消費電力量について

- 区分名
  「エネルギーの使用の合理化に関する法律（省エネ法）」では、テレビに使用される画素数、表示素子、動画表示及び付加機能の有無等に基づいた区分を行なっています。その区分名称を言います。
- 年間消費電力量
  省エネ法に基づいて、一般家庭での1日の平均視聴時間（4.5時間）を基準に算出した、1年間に使用する電力量です。

シミュレーテッド3D機能について

- 当機能を使うと、本機側での映像変換により、オリジナルの映像と見えかたに差が出ます。この点にご留意のうえ、当機能をお使いください。
- 本機を営利目的、または公衆に視聴させることを目的として、喫茶店、ホテルなどで、当機能を利用して2D映像を3D変換して表示すると、著作権法上で保護されている著作者の権利を侵害する恐れがあります。

商標について

- ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。Dolby、ドルビー及びダブルD記号はドルビーラボラトリーズの商標です。
- "FACE DETECTION"のロゴはソニー株式会社の商標です。
- HDMI、HDMIロゴ、およびHigh-Definition Multimedia Interfaceは、HDMI Licensing LLCの商標もしくは米国およびその他の国における登録商標です。
- DLNA®, the DLNA Logo and DLNA CERTIFIED® are trademarks, service marks, or certification marks of the Digital Living Network Alliance.
- AdobeはAdobe Systems Incorporated (アドビシステムズ社)の米国ならびに他の国における商標または登録商標です。
- 「アクトビラ」マーク、および「ａｃＴＶｉｌａ」、「アクトビラ」は、株式会社アクトビラの商標または登録商標です。
- 「おサイフケータイ」は株式会社NTTドコモの登録商標です。
- FeliCa(フェリカ)はソニー株式会社の登録商標です。
- 「POCKETCHANNEL」、「ポケットチャンネル」はソニー株式会社の登録商標です。
- 「Edy(エディ)」は、ビットワレット株式会社が管理するプリペイド型電子マネーサービスのブランドです。
- 「QRコード」は株式会社デンソーウェーブの登録商標です。
- 「TrackID」は、Sony Ericsson Mobile Communications ABの商標または登録商標です。
- Gracenote®、Gracenote のロゴとロゴタイプ、および"Powered by Gracenote"ロゴは、米国および/またはその他の国における Gracenote, Inc. の登録商標または商標です。
- © 1995-2010 Opera® Browser および Opera®ブラウザはOpera Software ASAの登録商標です。OperaのロゴはOpera Software ASAの商標であり、各国の著作権法、各種条約及びその他の法律で保護されています。

ソフトウェアのダウンロードについて

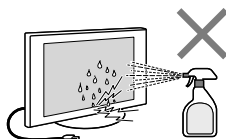
本機を最新の状態に保つために、デジタル放送またはネットワークから最新情報をダウンロードして、ソフトウェアを書き換えます。電源コードが抜かれていたり、主電源スイッチで主電源を切ったりしたときは、ダウンロードは行われません。
ソフトウェアの書き換え中は、本機前面の ⊠ ⏻ランプがオレンジ色に点滅します。電源コードを抜いたり、主電源スイッチで主電源を切ったりしないでください。ソフトウェアの書き換えが途中で終了し、誤動作を起こす場合があります。

お手入れについてのご注意

誤ったお手入れをした場合、テレビを傷つけたり、故障の原因にもなりますので、必ず電源プラグをコンセントから抜いて、次のことを必ずお守りください。

液晶画面、外装のお手入れ

以下のことは行なわない

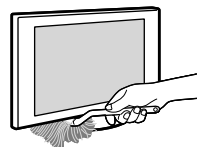
- 本機に直接水や洗剤を絶対にかけないでください。吹きかけた水や洗剤が画面下部や外装部にたれて本機の内部に入り込み、故障する場合があります。

- 殺虫剤やシンナーやベンジンのような揮発性のもの、クレンザーのような研磨剤は使わないでください。変質したり、塗装がはげたりすることがあります。

- テレビとスタンド(テーブルトップスタンド)部の間に手を入れて掃除しないでください。狭いので、手を挟むこともあります。

- 画面の汚れをふき取るときは、画面に圧力をかけないでください。
- ゴムやビニール製品に長時間接触させないでください。変質したり、塗装がはげたりすることがあります。
- 市販の液晶パネル用保護フィルターなどは使わないでください。

お手入れの方法

- 汚れがひどいときは、水で薄めた中性洗剤などに布を浸して固く絞ってふき取り、最後に乾いた布で軽くふいてください。

- テレビとスタンド(テーブルトップスタンド)部の間は柄つきのモップなどを使用してください。

- 軽い汚れをふき取るときは、めがね拭きなどの乾いた柔らかい布でそっとふき取ってください。
- 市販の化学ぞうきんやクリーニングクロスなどは、販売元に確認してから使用してください。
- 印刷面は乾いた柔らかい布で丁寧にふいてください。

保証書とアフターサービス

本機は日本国内専用です。電源電圧や放送規格の異なる海外ではお使いになれません。

保証書について

- この製品は保証書が添付されていますので、お買い上げの際、お買い上げの店からお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。
  ただし、液晶パネルは2年間です。
- 本機のメモリーに保存されたデータは、保証の対象外です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

「困ったときは」の項を参考にして、故障かどうかをお調べください。

それでも具合が悪いときはソニーご相談窓口へ

- 裏表紙にあるソニーご相談窓口へお問い合わせください。
- BSデジタル、110度CSデジタルの放送局との受信契約や番組に関しては、ご覧になりたい放送局のカスタマーセンターや衛星サービス会社、B-CASカスタマーセンター（電話番号0570-000-250）にお問い合わせください。
- デジタル放送全般については（社）デジタル放送推進協会（Dpa）のホームページをご覧ください。
  http://www.dpa.or.jp
- 地上デジタルの受信相談については、総務省地上デジタルテレビジョン放送受信相談センターにお問い合わせください。
  電話番号0570-07-0101
  （平日 9:00 ～ 21:00、土･日･祝日 9:00 ～ 18:00）

部品の交換について

この製品は、修理の際に交換した部品を再生、再利用する場合があります。その際、交換した部品は回収させていただきます。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは、保証書をご覧ください。
何らかの原因でコンテンツが外部メディアや外部記録機器（"メモリースティック"、デジタルレコーディングハードディスクドライブなど）に記録できなかった場合や、外部メディア･外部記録機器に記録されたコンテンツが破損または消去された場合など、いかなる場合においてもコンテンツの補償およびそれに付随するあらゆる損害について、当社は一切責任を負いかねます。あらかじめご了承ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料で修理させていただきます。

部品の保有期間について

当社では、カラーテレビの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を、製造打ち切り後8年間保有しています。この部品保有期間を修理可能の期間とさせていただきます。保有期間が経過したあとでも、故障箇所によっては修理可能の場合がありますので、お買い上げ店か、ソニーご相談窓口にご相談ください。

ご相談になるときは次のことをお知らせください。

型名： KDL-55HX920　KDL-46HX920
KDL-55HX820　KDL-46HX820
KDL-46NX720　KDL-40NX720

故障の状態：できるだけ詳しく

購入年月日：

本機のシリアルナンバーおよび定格は、本機後面に記載されています。

お買い上げ店
TEL.

This television is designed for use in Japan only and cannot be used in any other country.

「他製品との接続/関連情報」ホームページ
本機の接続などに関する情報を、以下のホームページでも確認できます。
http://www.sony.jp/support/connect/

「Q&A」ホームページ
お客様からよくあるお問い合わせと解決法に関する情報を、以下のホームページで確認できます。
http://www.sony.jp/support/tv/faq/

よくあるお問い合わせ、窓口受付時間などはホームページをご活用ください。

http://www.sony.co.jp/support

ソニー株式会社　〒108-0075 東京都港区港南1-7-1